

# 棚田発！日本のこころプロジェクト

代表者 村口 絢（農学部応用生物科学科2年）

## 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、小豆島中山地区の伝統ある棚田の景観や棚田米の素晴らしさをより多くの香川大学生、香川県民に知ってもらう事を目的としています。小豆島中山地区の棚田は全国棚田百選に選ばれており、持続させるべき文化的景観として注目されています。しかし近年、耕作者の高齢化により耕作放棄地が増加しているため景観の保全が大きな課題となっています。日本とインドネシアの学生が農山漁村に滞在し、地域の直面している課題に取り組むプログラムである SUIJI-SLP や昨年度の活動の中で、中山の人と関わり「私たちにも協力できることはないだろうか」と考えこのプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さを様々な人に伝えることで小豆島、中山地区の棚田保全と地域振興を目指しています。

## 2. 実施期間（実施日）

令和4年4月1日から 令和5年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、例年の活動を基に継続、発展させたものです。お借りした棚田の一部での耕作活動に加え、水路掃除や農村歌舞伎、虫送りといった小豆島中山地区の事業にも参加しました。

お借りした棚田での耕作活動として、学生が中山地区の農家の方々から作業をご指導していただきながら、4月に行われる棚田周辺の水路掃除から5月の代掻き、6月の田植え、夏から秋にかけて数回の草刈りを経て、10月下旬に行われる稲刈り、11月の脱穀までの耕作活動に参加しました。耕作活動を行う中で、農家の方々に教わるだけでなく、地域の小学生を対象とした田植え体験や稲刈

り体験などを開催する事によって、教える立場として棚田に関わる事で、幅広い世代と米作りを通して交流する事ができました。また、農学部で行われた収穫祭においては「棚田の会」として活動報告を行った他、棚田で収穫されたもち米や、過去に私達が作成した中山地区を紹介するパンフレットやポストカードの配布を行う事によって、小豆島中山地区の棚田や私達がやっている活動について詳しく知ってもらう事ができました。

棚田の耕作以外にも 350 年以上前から伝わる中山地区の伝統行事である虫送りに用いられる火手の作製や、受付や案内など虫送りの運営、周辺の交通整理など地域の行事をサポートする活動も行い、中山地区の伝統文化維持に貢献する事ができたと考えられます。

今年度の活動として、新たに香川大学の別プロジェクトである Radio18 との共同事業として高校生セミナーに参加しました。高校生セミナーでは、香川県の高中生と Radio18 の学生が小豆島中山地区の棚田や私達棚田の会の活動について学ぶ事に加え、小豆島の特産品であるオリーブの収穫体験を行う事によって得られた経験を基に高松市生涯学習センターで成果報告として公開収録を行いながら、同時に YouTube などでも生放送し、収録後には音源を FM 高松で放送する事によって、地域の方々に知ってもらえる機会を得た他、新たな小豆島の魅力を伝える事ができました。



稲刈りの様子



オリーブの収穫体験

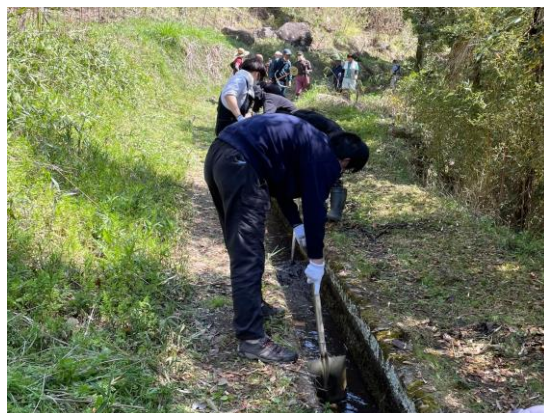
#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことによって、地域社会の活性化に寄与する事ができました。収穫祭においては、私達の活動を香川大学の学生や地域の方々に伝えられ、興味を持ってもらう事ができ、中山地区の棚田を多くの方々に PR する事ができたと感じています。SNS を用いて中山の棚田だけでなく、地域の伝統文化である虫送りや中山農村歌舞伎に関わる情報発信も行い、香川大学の学生や地域の人々に加え、遠くに住むたくさんの方々に伝える事ができ、関心を持って頂く事ができました。その他にも棚田での耕作以外の活動として水路

掃除を行いました。高齢化が進む地域において後継者不足に対する手助けとなる活動を行う事ができ、棚田の維持に繋げる事ができたと考えられます。



虫送りの様子



水路掃除の様子

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトの構成員は昨年度からの参加者を除き、多くは農業の未経験者であったため、中山地区の農家の方々から作業をご指導していただき、実体験として農業を学ぶことができました。中山の棚田では急斜面や狭い道があるため大規模な機械が使えず、場所によっては手作業や小型の機械を使い、棚田の伝統ある田植えや稲刈りの方法や大変な点などを学べました。また、こうした耕作作業は学校の授業などではなかなか体験できないため貴重な経験であったと感じます。プロジェクトの活動では学生のみだけでなく地域の方々との連携も重要であり、次第に地域の現状が見られました。そのため、地域が抱える問題や課題が分かりこれらの問題に対して、地域の方からの直接の話や意見から私たちに求められていることを考えることができました。棚田の会として参加したイベントや収穫祭での活動は普段の学生生活ではできない経験でした。また、普段関わることのないような年代や多くの職種の方々と交流し、視野を広げることができたように思います。これらは今後の学生生活や就職活動においても役立つ経験です。



田植えの様子



小学生の田植え体験

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点として今年度の予算配分額は 200,000 円となっておりますが、実際に使われた金額は最終的に 84,886 円と半分にも満たない額になっております。理由として交通費が予定より少ない事、それぞれの活動に対する参加人数が少ない事が大きな原因として挙げられます。今年度は元々参加できる主なメンバーが少なかった上、天候不良により活動日が変更する場合があります、この変更に対応する事ができませんでした。来年度に関しても、現時点でおおよその日程が決まっておりますが、天候不良などの要因で日程変更する可能性があり、これらの問題については今後も考えていく必要があります。更に収穫祭においては新型コロナウイルスの影響で飲食物の提供に制限がかかっていた為に赤飯や餅を配布する事が出来ず、予定していた出費がなされなかった為に、このような結果となってしまったと考えられます。

今後の展望として地域や棚田に対し、今まで以上に貢献ができればと考えています。来年度の棚田における耕作作業において、機械を今まで以上に多く用いる予定となっております。機械化による作業効率の増加によって、多くの負担を軽減する事ができると考えられます。更に私達の関わる棚田（耕作面積）や耕作に関わる作業日が今年度と比べ増加する事が決まっております、より本格的に耕作作業を行う方針で話が進んでいます。また小学生の田植え体験なども引き続き行う事も決定しており、地域の人々との交流や地域への貢献が更にできるのではないかと期待できます。来年度は新型コロナウイルスによる影響が比較的少なくなると考えられる為、より多くの耕作作業や地域行事に参加し地域の方々の力になれるように活動を続けていきたいと思っております。

## 7. 実施メンバー

代表者	村口 絢	(農学部2年)
副代表	横山 愛由	(農学部2年)
構成員	裏住 隼矢	(農学部3年)
	竹内 成太	(農学部3年)
	見館 真緒也	(農学部3年)
	山本 歩香	(農学部3年)
	野田 聖	(農学部1年)

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		200,000円			
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考	
交通費・宿泊費	虫送り	6	2,330	13,980	
交通費	草刈り	3	1,330	3,990	
交通費	草刈り	4	1,330	5,320	
交通費・宿泊費	中山農村歌舞伎	3	2,330	6,990	
交通費	稲刈り	5	1,330	6,650	
交通費	脱穀	4	1,330	5,320	
インクジェット複合機		1	5,170	5,170	
インクタンク		1	23,430	23,430	
長靴		4	3,509	14,036	
合計				84,886	